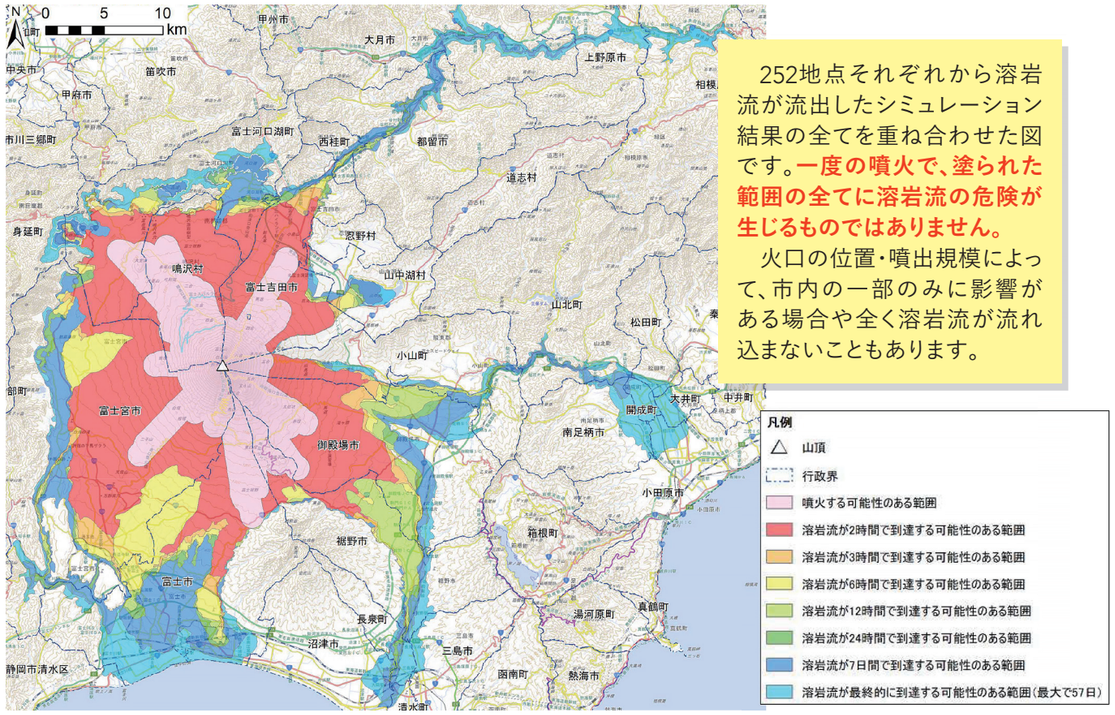
富士山ハザードマップが改定されました！！　～富士山噴火を正しく知り、備えにつなげるために～

可能性マップ

噴火する可能性のある想定火口範囲から噴火し、溶岩流が流れた場合「可能性としてどこまで到達するか」最大範囲や最小到達時間を示したものです。



252地点それぞれから溶岩流が流出したシミュレーション結果の全てを重ね合わせた図です。**一度の噴火で、塗られた範囲の全てに溶岩流の危険が生じるものではありません。**

火口の位置・噴出規模によって、市内の一部のみに影響がある場合や全く溶岩流が流れ込まないこともあります。

国、県、市などは大学などの研究機関と連携して、火山活動の異常を捉えるため、平常時から富士山全体をカバーできるよう監視・観測体制の充実を図っています。気象庁では噴火の前兆を捉えて噴火警報などを的確に発表するため、富士山周辺の火山観測施設や関係機関からの観測データを利用し、火山活動を24時間体制で監視・観測しています。

噴火してから避難ではなく事前に兆候をつかみ、噴火前から避難できるよう関係機関と連携しています。

溶岩流シミュレーション動画

県では今回の溶岩流ドリルマップのシミュレーション動画を作成し、県ホームページで公開しています。

マップ出典：山梨県「富士山ハザードマップ（改定版）検討委員会の成果を基に作成」

溶　岩　流　編

溶岩流とは ?!

溶けた岩石が連続して地表を流れ下る現象で、溶岩の物性や噴出率などによって流れる速度や厚さは大きく変化します。

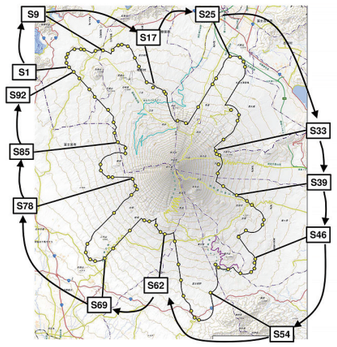
速度は比較的遅く、人が歩く程度であるため、噴火した後でも避難することが可能です。しかし、高齢者や障害者などの方で自力で避難することができない要支援者は早めの避難が必要です。

より低い場所に向かうため尾根を越えて流れることは稀と考えられます。

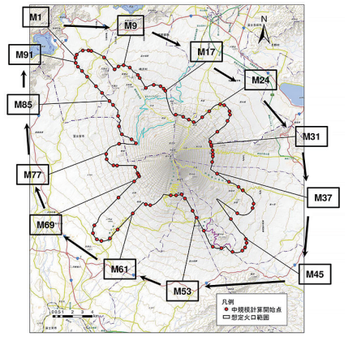
シミュレーション計算開始地点

合計252地点　　**※山梨県側・静岡県側を合わせた全体の合計**

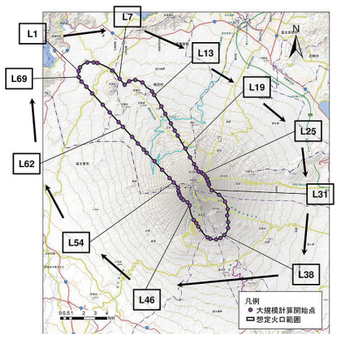
小規模噴火 92地点



中規模噴火 91地点



大規模噴火 69地点



ドリルマップ

溶岩流のシミュレーションを小・中・大規模噴火合わせて、252カ所で行っています。

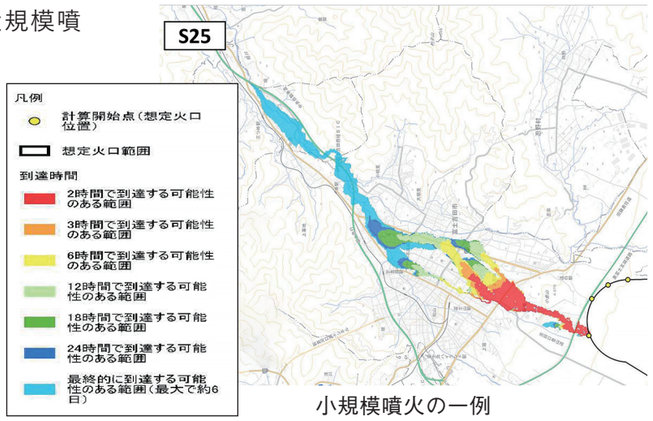
市内に影響を及ぼすシミュレーション

小規模16地点、中規模19地点、大規模21地点の合計56地点です。

小規模噴火 S20 ～ 35

中規模噴火 M14 ～ 32

大規模噴火 L9 ～ 29



小規模噴火の一例